

The logo consists of the letters 'ABC' in white, bold, sans-serif font, set against a red rectangular background with a white diagonal line.

ABC CSR REPORT 2016

CSR活動報告 2016



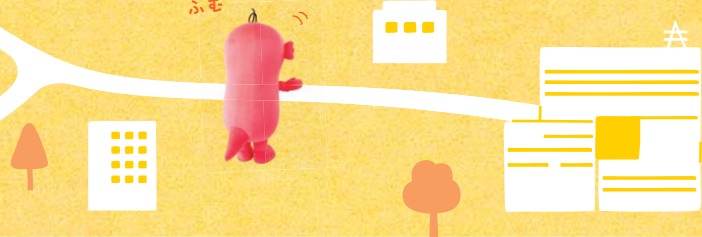
CSR方針

朝日放送は、高い公共性もち、
地域に根ざす放送会社としての社会的責任を果たすため、
以下の方針のもと、社会貢献活動を行います。

- 1 市民生活の保全と発展に寄与する
放送番組と事業を提供します。
- 2 地域に根ざした活動を通じ、
地域社会の活性化に貢献します。
- 3 地球環境や自然に配慮し、
その啓発活動にも積極的に取り組みます。
- 4 未来を託す子どもたちへの支援に尽力します。
- 5 社会に開かれた企業を目指し、
放送事業への理解を促進します。



ふむ
ふむ



Top Message

「100年企業」に向けて、 成長を続け、社会に貢献 できる企業であり続ける

朝日放送株式会社 代表取締役社長 わきさか さとし
脇阪 聡史

当社は2016年に創立65周年を迎えました。メディア環境が激変していく時代にあって、当社が100周年へ向かっていくためには、社会から信頼され続けることが不可欠です。企業は社会と切り離しては存在し得ないことは自明の理であり、当社は、主たる事業である放送において、社会の中にある情報を、正確かつ適切に収集し、社会に向かって発信し続けることで、企業としての社会的責任を果たし、社会の信頼にお応えしていきます。そして、放送を通じた活動のみならず、イベント・出前授業等、様々な取り組みを通じ、社会に貢献できる企業であり続けます。

「朝日放送グループは、変化に対応しながら進



化を続け、強力な創造集団として、社会の発展に寄与する。」これが、当社の経営理念です。

信頼される情報発信を続けていくためには、あらゆる変化に対応できる強い基盤が必要です。「グループ中期経営計画2015-2017」の戦略に沿って、当社グループは様々なアプローチを促進しておりますが、さらなる進化が必要です。

当社を支えて下さるあらゆるステークホルダーの皆様と、さらにコミュニケーションを深めることで、放送局として、企業グループとして、信頼と価値を高めてまいりたいと考えます。

今後とも一層のご支援とご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。



朝日放送のキャラクター
“エビスー”

- ▶ 朝日放送(ABC)本社前の堂島川近辺で目撃されるUMA(未確認動物)
- ▶ 朝日放送のテレビ・ラジオの電波が好きで本社近辺に出現
- ▶ 創立66周年の2017年は“喜ばせ隊士〜”たいしとして活動中!

地球環境や自然に配慮し、その啓発活動にも積極的に取り組みます。

「ガラスの地球を救え」キャンペーン since2000



「ガラスの地球を救え」

1989年に他界した天才マンガ家・手塚治虫さんが最後に残したメッセージです。「これ以上人間の手によって、大切な空気や緑、そして青い海を汚してはいけない。次世代を担う子どもたちの夢を守らなければいけない」という思いが込められています。

朝日放送は、2000年からこのメッセージを元に「ガラスの地球を救え」キャンペーンをスタートしました。環境保全の継続的実現を図り、地球にやさしい放送局を目指しています。

「ガラスの地球を救え」キャンペーン ①

スペシャル番組 「生き物たちから学ぶこと ワンダーアース4」



当社は「ガラスの地球を救え」キャンペーンの一環として、2003年度から年に一回、特別番組を放送し続けており、2016年度の放送で、14回目を迎えました。

2016年度は、生き物たちの驚くべき生態を解き明かし、様々な「ワンダー」に触れながら、同じ地球で生きる「生物」として大切なことを学ぶことをテーマに、4時間のスペシャル

生番組を、2016年4月29日(金・祝)午後2時から放送しました。

動物・植物・昆虫・海の生物、そして辺境生物…様々な境遇の生き物たちを知ったとき、私たちの常識では考えられないことに遭遇します。彼らの生き様は、私たちの価値観と物の見方を覆し、人間が生きる上での「ヒント」を与えてくれるのです!

今回の放送では〈アリから学ぶ「人生の生き方術」〉〈ナミブ砂漠の生き物から学ぶ「逆境で生きる智慧」〉〈生き物のチカラから学ぶ「未来の医療」〉等、6つのテーマを取材・放送し、“奇跡の星”地球のスゴさと素晴らしさを感じ、地球を大切にすることを育む番組をお届けしました。



ワンダーちゃん
地球を飛びまわって
いるんだし。

アフリカ大陸の
ナミブ砂漠だよ!

びっくりすることが
いっぱいあったよ!

今回はどこまで
行ったの?



「みんなの木」活動

「ガラスの地球を救え」キャンペーンの一環として、2007年にスタートした「みんなの木」活動は、次の世代を担う子どもたちに、自然の大切さ、命の尊さを知ってもらい、未来の環境について考えてもらう機会として誕生しました。

2012年までは、小学校や幼稚園での自然環境の特別授業や記念の植樹体験を中心に行なってきましたが、2013年春からは自然公園や里山等に場所を移して、植物の観察会や工作イベント等、身近な自然環境に触れる催しを行っています。

2016年度は、大阪湾に浮かぶ人工の島・舞洲で開催された「親子で楽しむ!!冒険バーベキュー大会(2016年



みんなの木

9月24日(土))で、「冒険&宝探し」をテーマに、ラジオのパーソナリティと一緒に約80名が、様々な樹木や草木が植えられ、たくさんの虫や鳥が生息するようになったフィールドを探索しました。

また、1970年に開催された大阪万博終了後に整備された「万博記念公園」でも、「ABCラジオまつり(2016年11月20日(日))」、「ABCラジオスプリングフェスタ(2017年3月12日(日))」に合わせ、実施しました。各回約40名(合計約200名)の親子・家族連れの方々にご参加頂き、ラジオのパーソナリティと一緒に、緑あふれる公園内を探索しました。「みんなの木」の活動の実施数は、通算51回となりました。

高石送信所太陽光発電



2013年11月にスタートした大阪府高石市の高石ラジオ送信所の太陽光発電事業は、4年目に入りました。

約2万9千平方メートルの敷地に約1万枚の太陽光パネルを設置しており、出力は1990kWで、発電した電気を関西電力に売っています。クリーンな電力を創出することを通じて、環境に配慮し、地球にやさしい放送局を目指しています。

参考
2016年
5月実績

太陽光発電電力
325,218kwh

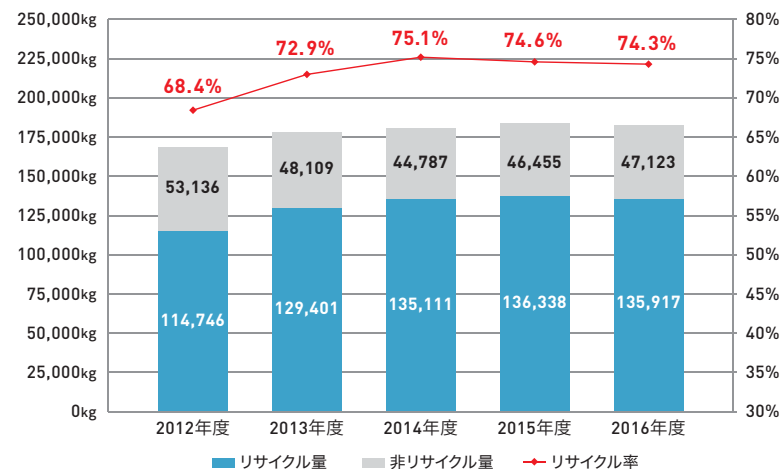
朝日放送本社屋の使用電力
1,049,692kwh

本社屋の電力の約31%を高石送信所の太陽光発電でまか
なっている計算になります。

リサイクルの促進

社屋全体(本社・アネックスビル)で、廃棄物のリサイクル促進に取り組んでいます。過去4年間(2013~2016年度)のリサイクル率は70%を超え、「廃棄物の減量推進、適正処理を継続的に実施している」として、2015年度には大阪市環境局長表彰を受けています。また経費削減の観点からも、コピー用紙の使用量の抑制にも取り組んでいます。

社屋全体 廃棄量 (アネックスビル含む。外構除く。) 年度別<通期>(2012年度~2016年度)



ニュースやドキュメンタリーをはじめとする各種放送番組や、イベント等を通じて、社会が抱える様々な課題についての事象や知見をわかりやすく伝えます。

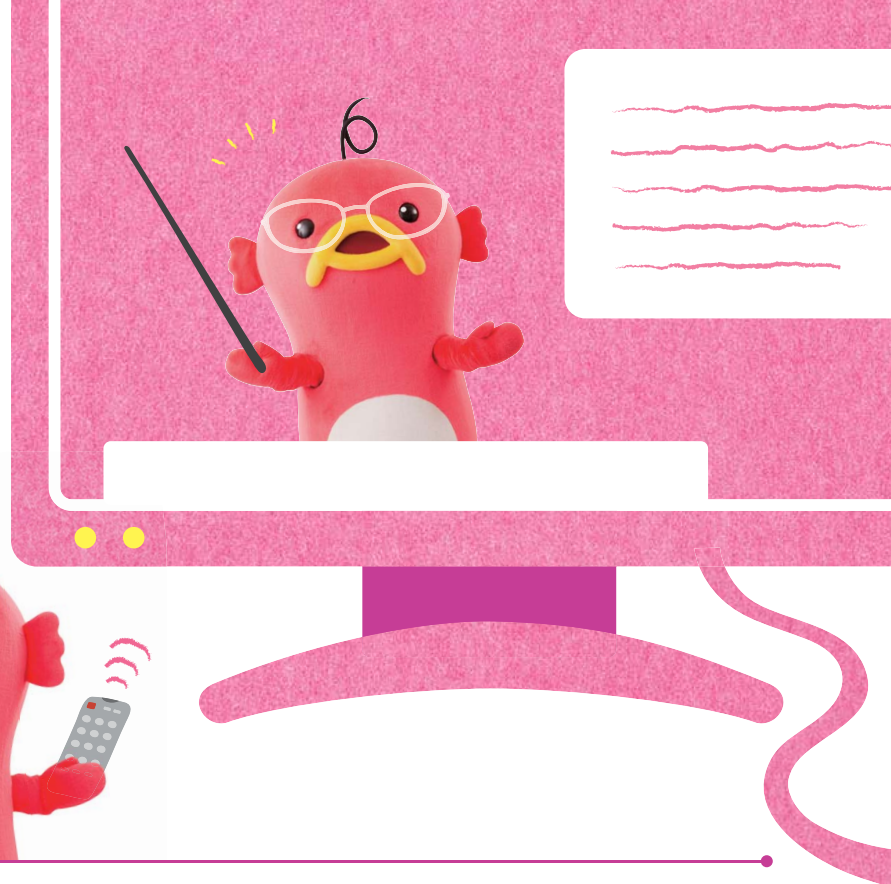


ABC創立65周年特別番組 「池上彰のニッポン未来塾」

2015年に“団塊の世代”の全てが高齢者（65歳）に入り、当社も2016年11月に65歳を迎えました。

そこで、2015年に65歳になったジャーナリスト・池上彰氏を司会に迎え、日本の人口の3割が65歳以上、2割が75歳以上になると予測される「2025年問題」をテーマにした番組を2016年9月22日（木・祝）午後3時から放送しました。

番組では「人口減少」「少子高齢化」「社会保障費の増大」「介護の担い手不足」等について、現状の課題を紹介した他、高齢化するニュータウンの再生や、地方で進められているシニアが暮らしやすい街づくりの取り組み、ロボットを導入した高齢者施設等を観ながら、2025年問題の乗り越え方を提案しました。

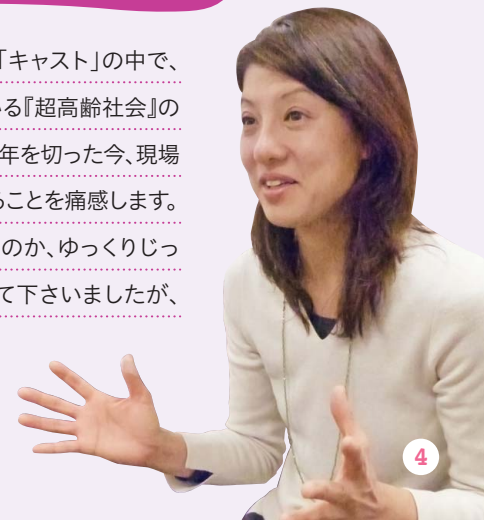


エビシーが聞くシー!①

にしむら みちこ
西村 美智子ディレクターに聞いたシ。

この特別番組は夕方のニュース番組「キャスト」の中で、2014年2月からシリーズでお送りしている『超高齢社会』の一環として放送しました。“2025年”まで10年を切った今、現場で取材をしていると、危機が目前に迫っていることを痛感します。

収録後、池上さんが『日本が今どのような状況にあるのか、ゆっくりじっくり考えて頂くきっかけになれば』と番組を振り返って下さいましたが、これからも、取材・放送を通じ、一人一人が“2025年問題”を考え、行動するきっかけを作っていきたいと思っています。



ABC創立65周年企画 「超高齢社会」

当社は、創立65周年企画として2014年2月から、夕方のニュース番組「キャスト」の中で、「超高齢社会」をテーマにしたシリーズ企画を放送しています。

2016年度は、未来の医療への問いかけや、新しい“セカンドライフ”のあり方に迫る企画等を1年間で8本放送し、シリーズ開始からの実績累計は34本となりました。

「超高齢社会」ラインナップ(2016年度)

ニュース番組「キャスト(月～金 夕方4時58分～)」で放送

4月	「2025年 大阪の医療はどうなる?! ～大阪府医師会のナンバー2が、スタジオ生出演～」 「身寄りのない高齢者を助けたい ～市民後見人の取り組み～」
5月	「おばちゃんが開いた『つどいの場』～介護を通じて交わる場を～」
8月	「定年のない人生 ～『セカンドライフ』に、就労を選んだシニアたち～」
9月	「『消滅危機のまち』から『生涯活躍のまち』へ ～徳島県美馬市の挑戦～」 「ロボットと共に生きる社会へ ～介護人材不足の解決策～」
10月	「変わる供養のカタチ ～核家族化・少子高齢化の果てに・・・～」
2月	「シニアの住み替え ～元気なうちに住み替えるという選択肢～」



災害・防災報道



災害発生時の報道を迅速に行い、防災・減災に役立つ情報伝達を適切に実施するとともに、過去の災害等の知見を活用し、啓発活動にも取り組んでおり、阪神淡路大震災を経験した放送局として、地域の安心と安全に係わる情報を迅速に視聴者の方々にお届けするシステムの構築に努めています。

その一つとして、総務省が推進する「L(エル)アラート」という「災害情報共有システム」を活用



して自治体が発表する地域のきめ細かい災害情報をテレビ画面に強制表示するシステムを構築し、2016年10月から実証実験を行っています。対象は、関西一円の約230の自治体で、これほど広範囲で大規模な実証実験は全国初です。

こうした取り組みを通じ、視聴者の皆様、株主様、地元関西の人々、従業員等をはじめとする全てのステークホルダーの皆様に信頼して頂ける放送局として、企業価値を高めてまいります。

字幕・解説放送

当社は、聴覚に障害のある方や高齢者の皆様に、テレビ番組をより楽しんで頂けるように、放送番組の音声情報を、文字情報として画面上に表示する「字幕放送」を一部の番組で実施しています。録画番組だけでなく、ニュース・スポーツ等、一部の生放送番組においてもリアルタイムに文字情報の表示を行っており、「視聴覚障害者向け放送普及行政の指針」の普及目標の対象となる7時から24時の放送番組における字幕放送の割合は、98%を超え、総放送時間に占める字幕放送時間の割合は3分の2に達しています。

また、目の不自由な方にもテレビを楽しんで

もらうべく、状況や登場する人々の表情等を副音声で説明する「解説放送」を一部のドラマ、バラエティ等で実施している他、一部のプロ野球中継でも生で解説放送を実施しています。



「ピンクリボン スマイルウオーク神戸」

「ピンクリボン」とは、乳がん啓発活動を表す世界共通のシンボルです。

当社は、2004年より、「ピンクリボン スマイルウオーク神戸大会」(主催:日本対がん協会、朝日新聞社、朝日放送、神戸新聞社 ※神戸新聞は2011年から)の開催をお手伝いしています。

2016年度は、10月23日(日)に、兵庫県神戸市のスペースシアター発着で行われ、10キロ、5キロ、3キロコースに、合わせて約2250名が参加。ステージでは専門医による啓発トークや、マンモグラフィーによる乳がん検診デモンストレーションを行いました。

また、検診車で乳がん検診(要事前申込・抽選制)や、自治体での検診情報の提供、賛同する協賛各社によるブース出展等、様々な催しを開催しました。

イベントを通じて、乳がんのことを理解し、命の大切さを共感し、検診への一歩を踏み出してもらえるよう、これからも応援を続けます。

写真提供:
日本対がん協会



「中之島まるごとフェスティバル」 (東日本大震災復興支援イベント)

本社のある大阪・中之島エリアで、2016年10月28日(金)～11月6日(日)に開催された「中之島まるごとフェスティバル(主催:中之島ウエストエリア・プロモーション連絡会)」は、2014年からスタートした、東日本大震災の被災地復興支援イベントで、今年で3回目を迎えました。

その一環として、当社は、社屋に隣接するABCリバーデッキで、被災地にピアノを届けるための寄付を募る震災チャリティーライブ“みんなのために”を、11月5日(土)に開催しました。このライブには、ギタリスト・古川忠義

さんをはじめとする多くのミュージシャンの方々にご賛同・ご参加頂き、当社の三代澤康司アナウンサーが司会を務めました。

「中之島まるごとフェスティバル」全体で、企業団体からの寄付を含め、総額560,138円が集まり、2016年12月11日(日)にお届け先・宮城県南三陸町の入谷公民館で、ピアノの寄贈式が行われました。



スタート!



地域住民や近隣企業、自治体等と協力し、イベント等を通じて、地域の活性化と賑わい創出のための取り組みを進めます。



ほたるまち 夏祭・秋祭ガーデン

本社に隣接する堂島リバーフォーラムで開催された朝日放送他が主催する「アートアクアリウム展」(2016年7月6日(水)～9月5日(月))に合わせ、社屋と堂島リバーフォーラムの間に位置するABCリバーデッキで、2016年7月9日(土)～8月14日(日)の毎週土・日と祝日、及び、8月12日(金)に「ほたるまち夏祭ガーデン」を開催しました。金魚すくいをはじめ、かき氷・ビールといった夏の定番屋台はもちろん、平日朝の情報番組「おはようコールABC(月～金 朝5時～)」の人気コーナー“横山太一(アナウンサー)の麴馬鹿”とのコラボメニュー「氷馬鹿」を提供する屋台等が登場し、地域の賑わいを創出しました。

2016年9月24日(土)・25日(日)には、同じABCリバーデッキで、「ほたるまち秋祭ガーデン」を開催し、観覧無料の音楽イベントを行いました。夏の高校野球中継で、多くの素晴らしい楽曲を提供している西浦達雄さん他、オオザカレンヂkeisukeさんらが、優しい歌と演奏で来場者を迎えました。また、このイベントでは、入社1年目の澤田有也佳アナウンサー(24日)と小西陸斗アナウンサー(25日)が司会を務めた他、当社

キャラクターのエビシーが、「体操ユニット・デュオ」として活動中の「天晴レ天女ズ」と一緒に登場して「エビシー体操」を初披露しました。

秋祭り、エビシー体操
『みんなのエビシー』を
お披露目したシ♪

ほたるまち
秋祭ガーデン



みんなと一緒に
踊ってくれると
嬉シー♡

※ほたるまち：
朝日放送本社がある、多目的ホール・マンション等を含む
大阪市福島区の複合施設

ほたるまち
夏祭ガーデン





中之島 なつまつり

当社は、本社を構える大阪・中之島エリアで働く人たちと、そこにお住まいの方々と新しいコミュニケーション創造を目的として、2013年から大阪国際会議場(グランキューブ大阪)及び中之島バンク上で「中之島 なつまつり」を、中之島を拠点とする6つの企業・団体と共同で主催しています。

今回は4年目で、2016年8月29日(月)に開催し、当社の桂紗綾アナウンサーと小西陸斗ア

ナウンサーが司会を務めました。

会場では、河内家菊水丸さんの盆踊りや地元ミュージシャンの演奏が行われた他、リーガロイヤルホテルをはじめ中之島周辺の人気飲食店によるグルメ屋台が並び、約3900人が来場しました。

エビシーも浴衣姿で参加し、桂アナウンサーと一緒に盆踊りを披露しました。



中之島ウエスト 冬ものがたり

当社は、本社近隣(中之島西エリア)の活性化とイメージアップにより、地域価値の向上に資することを旨とするイベント「中之島ウエスト冬ものがたり(主催:中之島ウエストエリア・プロモーション連絡会)」にも参加しています。

このイベントは2012年冬にスタートし、2016年度のメインプログラムは12月14日(水)~25日(日)の12日間、社屋前の福島港(ほたるまち港)を中心に行われました。ほたるまち港一帯の樹木には「ひかりの実」(光る小オブジェに笑顔を描き街路樹等に飾りつけられるスマイルアート)がほのかに灯り、社屋南側正面の堂島川では、「中之島ウォーターファンタジア」

(大噴水ライトアップ)が行われました。堂島川には、アーティスト武内祐氏が描く愛らしい動物たちがモチーフの「冬ものがたりシンボルシップ」が浮かび、中之島一帯を周遊クルーズしました。

当社は、堂島川に面した当社リバーデッキで、エビシーを使ったオリジナル企画「エビシー・きらきら・クリスマス」を実施しました。今回は、社屋の壁に投影した巨大なクリスマスツリーに、子どもたちがエビシーと一緒に飾り付けをするという体験型ゲームを実施し、イベントの盛り上げに貢献しました。



中之島ウエスト
冬ものがたり2016
水と光のフェスティバルタウン



「ABCラジオまつり」 「ABCラジオスプリングフェスタ」

朝日放送では、ラジオのリスナーの皆様にご感謝の気持ちを込めて、春と秋の年2回、お祭りイベントを万博記念公園で開催しています。生放送や生ライブの他、物販・飲食ブース、体験コーナー等が並び、盛りだくさんの内容のお祭りです。

ABCラジオまつり
2016



11月20日(日)には「ABCラジオまつり2016」を開催しました。秋から始まった新番組を含む、たくさんのラジオパーソナリティが大集合、2つのステージを使って、5時間に及ぶ生放送や音楽を中心したライブを催しました。4万9495人の皆様にご来場頂きました。

また3月12日(日)には「ABCラジオスプリングフェスタ2017」を開催しました。生放送や音楽ライブの他、オリンピックメダリストの朝原宣治さんによる「正しい走り方教室」や、メイクアップアーティストのミワンダフルさんのレッスン、アナウンサーによるニュースやスポーツ実況講座等、大人から子どもまで楽しんで頂きました。スプリングフェスタには、5万2836人の皆様にご来場頂きました。

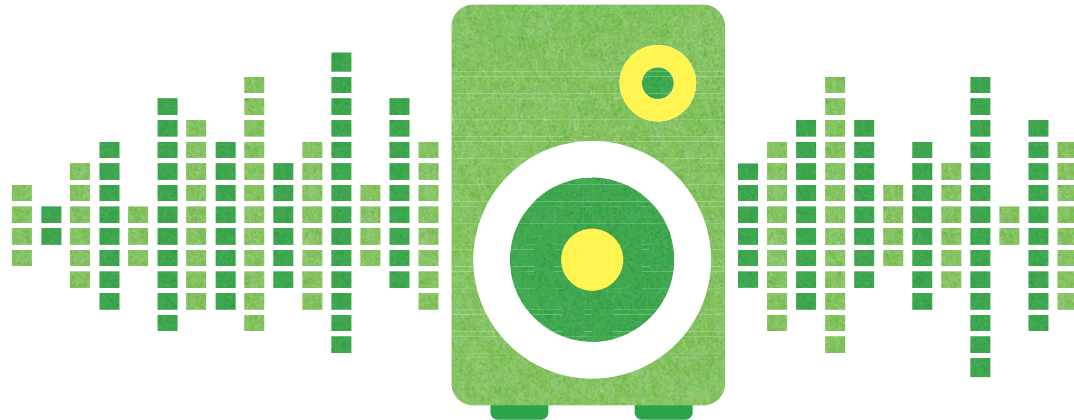
ABCラジオ
スプリングフェスタ
2017



エビシー、
がんばるシー♪



“66周年喜ばせ隊士〜”
に化身したエビシーも登場!



アナウンサーによる地域貢献

朝日放送のアナウンサーは、2010年度から、社会福祉施設や関連イベント等で、絵本の朗読や実況の実演、司会進行のお手伝い等を行っています。

2016年度も昨年度同様、1月から2月にかけて3回実施し、2010年度からの累計は37回となりました。今後も、こうした活動を通じ、地域とのコミュニケーションを図ることで、放送への理解を深めて頂き、エリアとの親和性を高めていきたいと考えています。

クリーンアップ活動

2016年4月22日(金)と12月13日(火)に、大阪の福島・中之島エリアの清掃活動を行いました。

朝日放送が参加している「中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会」が主催し、近隣企業、住民の皆様にもご参加頂きました。

いつも美しく安全で魅力的な街であるために、地域一体となって活動しています。



未来を託す子どもたちへの支援に尽力し、
次世代の育成に取り組めます。

ABC子ども未来プロジェクト

since2007

ABC 子ども未来プロジェクト

「ABC子ども未来宣言」

朝日放送では、全社横断的な組織として、「子ども未来プロジェクト」を2007年1月に立ち上げました。「いじめ」「虐待」「自殺」「犯罪の若年化」等、子どもを巡る環境は厳しいものがあります。子どもたちがさらされている危機は、私たちの未来が摘み取られていることと同じであり、

そんな子どもたちが将来に対して、明るい希望をもってもらうため、「子ども未来プロジェクト」では、番組やイベントを通して、視聴者の皆様と共に考えるコンテンツを発信し続けていきます。



ABC子ども未来プロジェクト ①

「がんばれ!元氣ッズ」

毎週土曜日
午後5時55分放送

がんばれ!
元氣ッズ

「がんばれ!元氣ッズ」は、
2009年春から放送しているミニ番組です。

テーマは「おとなから 子どもたちへのメッセージ」。
タレント、俳優、スポーツ選手、アーティスト等各界の
著名人が1カ月に一人のマンスリースタイルで登場し、
自らの子どもの頃のエピソードや我が子とのふれあい
方等、テレビを観ている「今の子どもたち」に教えてあ
げたいこと、知ってもらいたいこと等を語ります。

2016年度は別所哲也さん、片岡安祐美さん、西川
きよしさん、おのののかさん、渡辺徹さん、May.Jさん、
チャンカワイさん、把瑠都さん、セイン・カミュさん、
クリス・ハートさん、篠原信一さんといった、タイムリー
かつバラエティー豊かな皆さんから、心の込もった
メッセージを頂きました。



写真:
武田和歌子アナウンサー
(ナレーション)

小中学生!夏休み社屋見学会

朝日放送では社屋を現在の大阪市福島区に移した2008年から毎年、夏休みに、小中学生を対象とした社屋見学会を開催しています。

いつも観ているテレビや、いつも聴いているラジオの番組が、どのように作られて、放送されているのか…。将来を夢見る子どもたちに、朝日放送の社屋を見て放送局をより身近に感じて頂ければと願っています。



2016年度も、夏休みに入って間もない2016年7月26日(火)と27日(水)に、小中学生対象の社屋見学会を開催しました。事前に「おはようコールABC」「おはよう朝日です」「キャスト」で募集告知し、当選した141人が見学会に参加。案内は各部署の新社員から大ベテランまでが担当しました。

ラジオのスタジオで、生放送中の番組を見学した後、現役ラジオディレクターの指導で番組制作を体験したり、「おはよう朝日です」のスタジオでは、島田・岩本・乾・横山・大野アナウンサーとテレビ制作技術部員のサポートのもと「おはよう朝日です」の番組づくりに挑戦しました。行程は1時間45分で、最後には、展望テラスでABCキャラクター「エビシー」と記念撮影をして終了しました。

参加した子どもたちの保護者からは「毎朝『おは朝』を観ているのですが、番組から受ける雰囲気そのままに、(社員・スタッフの)皆さんが温かく、とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。」「其々に得るものがあったのではと思っています。」といった声をお寄せ頂きました。



ABC出前授業 エビシー教室

朝日放送では、2011年から、エリア内(近畿2府4県)の小学校を、現場の第一線で働くディレクター、アナウンサー、記者、カメラマン等が訪問して出前授業を行っています。対象は原則として、メディアの授業が始まる小学校高学年ですが、小学校以外の応募も可能です。

授業では、番組作りや取材現場の裏側をお話したり、持参した本物の放送用カメラやマイク等に、実際に触れてもらってカメラマンやスイッチャーの体験をしたり、ニュースキャスターやフロアディレクターを体験して頂くことを通じて、より身近に放送局を体感できる機会となっています。

参加した子どもたちからは「念願のアナウンサー体験ができたことが、なによりうれしかったです。」「スタジオにいる人全員が力を合わせて



ABC出前授業
エビシー教室



協力していました。これからの生活でも、友達と協力したいです。」等の声が寄せられました。

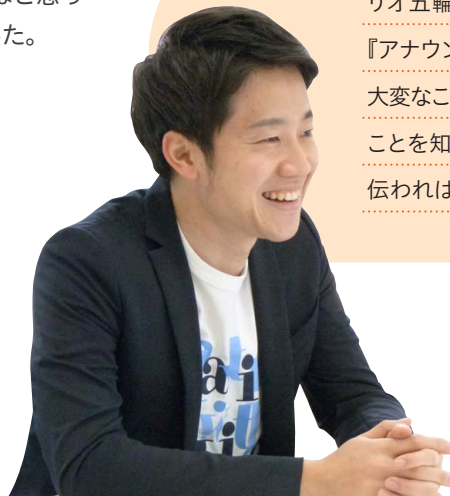
エビシー教室は、2016年度は31回、過去6年間で通算123回、実施しました。

エビシーが
聞くシー!②

きたむら しんべい
北村 真平アナウンサーに聞いたシ。

リオ五輪を現地取材した際に現地で見聞きした裏話を交えて『アナウンサーの仕事』についてお話ししました。

大変なこともたくさんありますが、現場に行かなければわからないことを知り、伝えることができるこの仕事の楽しさが、少しでも伝わればいいなと思っています。



ABC CSR活動報告2016

対象期間：2016年4月～2017年3月
発行年月：2017年5月
会社情報サイト：<http://corp.asahi.co.jp/>